



# 学思

「学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ばざれば則ち殆し。」——『論語・為政篇』

Newsletter No.73

2023年1月～3月

JSPS Beijing

## 目次

●センター長のコラム.....	2
●活動報告.....	3~4
・JSPS 中国同窓会安徽支部会を開催	
・JSPS 海外研究連絡センター長会議を開催	
・JSPS 韓国同窓会シンポジウムを開催	
●帰任の挨拶.....	5
副センター長 成瀬雅也	
●着任の挨拶.....	6
副センター長 金子めぐみ	
国際協力員 小原和樹	
●2023年度 JSPS BRIDGE Fellowship Program 選考結果.....	7
●活動記録（2023年1月～3月）.....	7
●編集後記.....	8

編集・発行

日本学術振興会北京研究連絡センター

## JSPS フェロー今昔

2022年4月にセンター長に就任してから1年が経ちました。8月にやっと北京に赴任できたもののコロナ禍に翻弄されて身動きの取れない日々が続いておりました。それが、ゼロコロナ政策が緩和されるや否や、春の訪れとも相まって世の中がにわかに活気づいてまいりました。いよいよポスト・コロナ時代が始まろうとしています。日中間の学術交流についても、新しい時代の幕開けを前にそのあり方について模索が始まろうとしています。このような状況の下で北京センターがいかにしてその使命を果たしていくのか、しっかりと動向を見極めつつ対応していかなければと思っているところです。

2月の末には合肥の大学を訪問し着任後初めて対面での事業説明会を実施することができました。このイベントは、現地のJSPS同窓会員の一人が企画してくれたものです。この会員は研究者の招へい事業により日本を訪問しておりますが、その際に日本側に非常に丁寧に受け入れてもらえたことに感謝しており、かなりご高齢になった今でも、その恩返しにと日本との交流の促進に尽力してくださっています。

1979年から始まった研究者交流事業の開始当初は、中国から研究者が来日すると、スタッフが空港で出迎えて都内の本部にお連れし、そこで滞在費として現金を渡してからそれぞれの訪問先にお送りするという、きめの細かい対応をしておりました。それまでの中国の研究者にはほとんど外国を訪れる機会はなく、全く外貨を持たず日本空港に到着することも珍しくなかった時代です。たとえ20日間ほどの短期滞在であったとしても、研究者としてのキャリアにおいて記念碑的出来事であったかと思います。その中でJSPS職員による丁寧な応対も忘れられないものとして記憶されたことでしょう。

その後、研究交流は個々の研究者交流から、プロジェクトによる協力へと重点が移行するようになります。1996年から中国国家自然科学基金委員会(NSFC)と共同研究事業が開始されるようになると、派遣側が派遣者の経費を全て負担するようになりますので、来日しても中国人研究者がJSPSと接する機会はほとんどなくなりました。招へい事業により訪日した研究者に対しても、滞在費をオフィスで現金で支給することはなくなりました。

40年以上に渡り中国から研究者を受け入れたきた積み重ねは、JSPSにかけがえのない財産をもたらしてきたといえますが、時代が進むにつれて研究者の世代も交代し、交流開始当初とは違う世代が日中の学術協力の第一線を担うようになってきております。当然、中国の研究者のJSPSへの思いも昔とは異なってきております。我々もこのことを踏まえつつ中国人研究者との信頼関係の構築に努めていく必要がありましょう。

ところで、さきに紹介した同窓会員は、今まで何人もの若手研究者を日本へ送り込んできた実績があります。合肥での事業説明会では、この研究者によるセッションも設けていたのですが、説明会終了後は、SNSの連絡先の交換を希望する若者たちに囲まれていました。この老研究者の日本への思いが、若い世代に受け継がれていくことを期待してやみません。

日本学術振興会北京研究連絡センター  
センター長 山口英幸

## JSPS中国同窓会安徽支部会を開催

JSPS 中国同窓会元副会長である中国科学技術大学趙保華教授のご協力のもと、2023年2月27日（月）、28日（火）に、それぞれ中国科学技術大学および安徽大学においてJSPS事業説明会を開催しました。

2月27日の中国科学技術大学の説明会では、中国科学技術大学国際協力・交流部王晨副部長の進行により、当センターの山口センター長からJSPSの概要と実施している主要な国際交流事業について紹介がなされ、特に外国人特別研究員事業の申請書の書き方や重視すべきポイント等について詳細な説明がありました。その後、同窓会員である中国科学技術大学の趙保華教授、胡隆華教授よりJSPS事業への申請時のエピソードや日本での研究活動などについて体験談を語っていただき、日共同研究の役割や推進についてご紹介いただきました。



説明会の様子



展覧会を見学



座談会の様子

きました。

なお、山口センター長は説明会に先立ち日中正常化50周年記念展覧会を見学したほか、国際協力・交流部の瞿昆部長を訪問し、関係者らと日中の研究協力について意見交換を行いました。

2月28日の安徽大学の説明会では、安徽大学国際協力・交流処の胡学文処長の進行により、当センターの山口センター長から前日と同様にJSPSの国際交流事業に関する説明がなされました。その後、同窓会員である中国科学技術大学の趙保華教授、安徽農業大学の王濱教授、そしてわざわざ合肥市に駆けつけてくださった安徽工業大学の周伝華教授よ



説明会の様子

りJSPS事業への申請時のエピソードや日本での研究活動などについて体験談を語っていただき、日共同研究の役割や推進についてご紹介いただきました。

山口センター長は、説明会の前に党委書記の蔡敬民教授を表敬訪問し、今後の安徽大学と日本の大学との交流等について意見交換をしました。



山口英幸センター長（左）と蔡敬民教授（右）

中国科学技術大学においては約60名、安徽大学においては約200名の教員や研究生が参加いたしました。

本事業説明会を通して、日中の共同研究や人材交流事業により多くの研究者が参加し、JSPS中国同窓会がますます発展することが期待されます。

## JSPS海外研究連絡センター長会議を開催

2023年2月2日（木）、コモレ四谷タワー（東京、日本）においてJSPS海外研究連絡センター長会議が開催されました。本会議は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、ここ数年オンラインでの開催が続いておりましたが、この度、対面での開催される運びとなり、10カ国から11名のセンター長やアドバイザーが集まり、杉野理事長をはじめとするJSPS本部の役職員と意見交換を行いました。当センターからは山口英幸センター長が参加いたしました。

会議では、JSPS本部より法人全体の最近の動向について説明がなされた後、各海外研究連絡センターより令

和4年度の活動状況の報告がありました。また、活動報告後には自由討議の時間が設けられており、各海外センターが抱える課題や今後の展望について、活発な議論が行われました。

今回の会議を通して得られた他の海外研究連絡センターの知見も参考にしつつ、本年度はより当センターの活動が充実したものとなるよう、事業の企画・実施に努めてまいります。



## JSPS韓国同窓会シンポジウムを開催

2023年3月10日（金）、ギヨンソン大学（Kyungsung University、釜山、韓国）において、JSPS韓国同窓会主催のシンポジウム（16th JSPS Association of the Korea-Japan Researcher Network Symposium）が開催されました。今回のシンポジウムは、「Sustainable Development Korea-Japan Researchers, Linkage of Cultural

Association Exchange Symposium」と題し、主に化粧品や美容に関する研究成果の発表・報告等が行われました。また、発表の合間には会場であるギヨンソン大学を見学するツアーも盛り込まれており、実際に韓国の大学の様子を知ることができる良い機会となりました。会場には数百人の参加者が集まり、たいへん盛況なイベントとなりました。当センターからは山口英幸センター長が参加し、開会の挨拶を行いました。

当センターが韓国同窓会行事に参加することは初めての試みであり、中



国の国内以外の同窓会の活動を、実際に現地に赴いて体験することができたという点で、非常に貴重な経験となりました。今後は、韓国も含めた東アジア地域の国々と日本との交流に対して、当センターがどのように貢献していくことができるのか、検討を進めたいと考えています。





2023年3月31日をもって副センター長を離任します。

2年の在任期間の大部分は、コロナ禍のため北京の外に出ることもままならず、十分な活動ができませんでしたが、昨年途中から赴任した山口センター長と後任の金子めぐみさんにバトン

西安にて を渡し、無事帰国できることに安堵しています。これも、中国で出会った日中の大学・政府系機関やJSPS中国同窓会などの関係者の皆様、公私ともにお付き合いいただいた友人・知人、何より駐在員不在時にもセンターの機能を維持してくれた現地職員の江さん・余さんのおかげと感謝しています。

仕事上は十分な活動ができませんでしたが、危機の際にこそ社会の本質が見えてくるもので、次々と打ち出されるコロナ対策とそれに対する人々の反応、正常化に向けての取り組みから、現在の中国社会を垣間見られたことは貴重な経験でした。

他の多くの方と同様、コロナ禍の下で個人的にも試されることの多い期間でした。着任時は、ビザの取得が遅れた上、青島で3週間の完全隔離を経て北京に到着したのは6月に入ってからでした。隔離ホテルの部屋でPDFにして送ってもらった証拠書類を見ながら会計などの業務を処理したことを鮮明に覚えています。北京に到着後も過去にセンターで実施したイベントの報告などを見て、現状との落差に落ち込むこともありましたが、その都度周囲に励まされながら、与えられた状況でできることを精一杯やるしかないという心境で過ごすことができました。

困難ばかりではなく、中国の発展の勢いに刺激を受けた2年間もありました。電子決済やネットショッピングをはじめとしたデジタル社会の浸透ぶりとともに、ゼ

ロコロナ政策転換時の一夜にして社会の様相が変わるダイナミズムに圧倒されました。また、社会の急激な変化の中でも、人間関係の濃密さや人との距離の近さは残っていて、中国とそこに暮らす人々にますます興味を持つようになりました。

今、着任時の挨拶を読み返すと「国内外の情勢が落ち着いた頃には、中国思想と世界遺産、『史記』や『三国志』で親しんだ中国史の世界を感じる旅に出られる日が来ることを信じて頑張っていきたい」と書いていました。遅ればせながら、3月には以前から訪れてみたかった曲阜と西安に行くことができました。どちらも想像以上に素晴らしい場所でした。まだまだ中国には日本から直接行き難い魅力的な街や場所がありますが、次に中国に滞在する機会があった時に捲土重来を期したいと思います。

帰国後は、鹿児島大学で国際交流に関する職務に就くことになります。これからも大学で国際交流に携わる以上、中国との縁が切れることはないと想いますので、今後も中国に対する関心を持ち続けたいと思います。今度は日本に来る中国人のお手伝いが少しでもできるよう中国語の勉強も続けたいと思います。また、どこかで皆さまと会える日が来ることを信じています。それまで、お元気で。再見！

副センター長 成瀬雅也  
(任期: 2021年4月1日~2023年3月31日)



週末フットサルをして過ごした朝陽公園



JSPS 北京研究連絡センターの副センター長に就任いたしました金子めぐみと申します。現在、渡航に関する手続を行っており、準備が整い次第北京に向かう予定です。

これまで JSPS では外国人研究者の受入業務やスルバーグローバル大学創成支援事業等、主に国際交流に関わる業務に携わっていました。業務を通じて、外国人研究者や留学生と交流する機会や、海外出張の機会はありました。海外での勤務は初めてですので、少しの不安と大きな期待に胸をふくらませているところです。

業務上の目標としましては、コロナ禍の影響でここ3年ほど停滞しがちだったイベントやセミナーの再開、また、JSPS 中国同窓会等をはじめとする日中の学術交流の促進に微力ながら貢献していきたいと思っています。

現在の北京センターは、先輩のセンター長をはじめ、ベテランの現地職員の皆様、頼りがいのある国際協力員という布陣でとても心強く感じています。私もチームの一員として、日中の研究者支援や国際交流のために頑張っていく所存ですので、どうぞよろしくお願ひいたします。

副センター長  
金子めぐみ



4月1日より JSPS 北京研究連絡センターに着任しました、東京大学の小原和樹（こはら かずき）と申します。2020年度に JSPS 東京本部にて二国間交流事業に携わり、主にアジア地域を中心と

した海外の対応機関とのやりとりを担当しておりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う渡航制限等の影響により、一度自身の所属する大学に戻り、今回改めて北京に派遣されることとなりました。

約20年前、大連の日本人学校に3年間通ったことをきっかけに中国に関心を持ち、大学生の頃には、短期留学プログラムへ参加したり、来日した中国人の研究者の方々や学生さんのサポートをしたりしていました。大学職員として働くようになってからも、

業務を行う中で中国の研究者の方と関わる機会がありました。彼らの積極性やバイタリティに驚かされる場面が多く、その度に、急速に発展し景色を変えていく中国という国家に暮らす人々の力強さを身に染みて感じていました。今回、実際に現地での生活を通して、より一層中国への理解を深めることができるのでないかと期待しています。

当面の間は、語学力の向上と、世界でも有数の「デジタル社会」での生活にいち早く順応すること目標に、日々学んでいきたいと思います。また、仕事の合間に縫って、趣味のランニングも続けていくことができれば、と考えています。

どうぞよろしくお願ひいたします。

国際協力員  
小原和樹

## 2023年度JSPS BRIDGE Fellowship Program選考結果

本会の外国人特別研究員事業等に採用されて来日し、日本での研究活動を終了した外国人研究者を対象として、再度来日して日本人研究者との研究協力関係を形成・維持・強化する機会を提供する、外国人研究者再招へい事業（BRIDGE Fellowship Program）を行っています。

対象分野は人文・社会科学及び自然科学の全分野です。渡航費、滞在費、海外旅行保険料を支給するほか、採用期間中の活動経費として調査研究費を申請することが出来ます。

この度、2023年度の選考を経て下記の5名の方々の採用が決まりました。実りある日本滞在となることを祈っております。

高 紋（南京監査大学経済学院 教授）

屈 鵬（聊城大学機械・自動車工程学院 准教授）

徐開達（西安交通大学情報・通信工程学院 教授）

楊新波（蘇州大学エネルギー学院 教授）

楊 陽（中国科学院深海科学・工程研究所 研究員）

### センターの活動記録

（2023年1月～3月）

**1月**

30日 広報文化十一者会出席

**2月**

2日 JSPS海外研究連絡センター長会議出席  
7日 新年賀詞交換会出席

17日 北京国際教育展参加

24日 広報文化十一者会出席

27～28日 JSPS中国同窓会安徽支部会（中国科技大学、安徽大学）

**3月**

6日 2022年度留日学人活動ステーション総会出席

10日 JSPS韓国同窓会シンポジウム出席

18日 2022年度JICA研修員同窓会セミナー参加

23日 文化講演会参加

24日 広報文化十一者会出席

31日 天皇誕生日祝賀レセプション出席

## 編集後記

昨年末にゼロコロナ政策が終了し、春節期間中の地方への波及も心配された程ではなかったようで、中国にも一気にコロナ前の日常が戻って来ました。3月にはこれまで活動できなかつた分を取り戻すように多くのイベントが企画・実施されました。

弊センターでは、2月27、28日に、約2年振りの対面での主催イベントとなるJSPS中国同窓会安徽支部/JSPS事業説明会を安徽省合肥市において開催しました。北京でも大使館をはじめ多くの団体・機関が開催するイベントに招かれる機会が急に増えました。また、日本に帰国していた在中国日本人研究者ネットワークのメンバーも多くが再び中国に戻って来ました。今後、出張ベースでの往来が復活すれば、本格的に日中の学術交流が回復することが期待されます。

人事異動の時期となり、センターでも、副センター長が交代するほか、3年振りの国際協力員となる小原和樹さんを新たに迎えます。新たなメンバーとともに心機一転して活動を再開する北京センターをよろしくお願ひいたします。

副センター長 成瀬雅也

### 日本学術振興会 北京研究連絡センター

JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE BEIJING REPRESENTATIVE OFFICE

北京市海淀区西三環北路89号 中国外文大厦A座404室

郵便番号: 100089

Tel: +86-10-8882-4331

Fax: +86-10-8882-4332

E-mail: [beijing@jfps.org.cn](mailto:beijing@jfps.org.cn)

URL: [www.jfps.org.cn](http://www.jfps.org.cn)



WeChat